

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名		部名	上下水道部	
	17011	水道生活基盤整備事業		課名	上水道課 上水道工務G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務科目	会計	11:水道公営企業会計
	基本施策	03:上下水道の充実			款	資1:資本的支出
	施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給			項	01:建設改良費
戦略プロジェクト	-		目		01:施設費	
事業予定期間	H 29 ~ R 3 年度	主な根拠法令要綱等	水道法			

目的・概要	対象	川崎町、住山町の加圧エリアの住民
	目的	川崎町北部地区、住山町西部地区の水量・水圧低下を解消するため、加圧ポンプ室の機能強化を図り、安定した水道水の供給を図る。
概要	概要	加圧ポンプの容量不足が発生し、施設の老朽化が著しい「川崎加圧ポンプ室」及び「住山加圧ポンプ室」について、隣地土地を取得し、新たに施設を建設する。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
年度計画	年度計画	川崎加圧ポンプ室 ・外構工事 ・機械・電気設備工事 住山加圧ポンプ室 ・登記事務 ・詳細設計 ・地質調査 ・用地買収	住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事、外構工事 ・建築工事監理 ・機械・電気設備工事	住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事、外構工事 ・建築工事監理 ・機械・電気設備工事	
	年度実績	○川崎加圧ポンプ室 ・建設工事(その1)(土木・建築)(H30繰越) ・建築工事監理業務委託(H30)繰越 ・外構工事 ・機械・電気設備工事 ○住山加圧ポンプ室 ・登記事務・詳細設計 ・地質調査・用地買収	住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事(外構工事含む) 【令和3年度へ繰越】 ・建築工事監理 【令和3年度へ繰越】 ・機械・電気設備工事 【令和3年度へ繰越】		
事業の計画・実績	計画額	事業費	155,100千円	138,600千円	130,700千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	155,100千円	138,600千円	130,700千円	
	予算額	事業費	195,165千円	57,290千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	195,165千円	57,290千円	0千円	
	決算額	事業費	184,839千円	23,590千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
地方債					
その他					
一般財源	184,839千円	23,590千円	0千円		
人件費	総人件費	6,044千円	3,136千円	0千円	
	一般職員	6,044千円	3,136千円	0千円	
	所要人員	0.77	0.40		
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		190,883千円	26,726千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度	
指標	名称	川崎地区加圧ポンプ室改良工事整備率 実施済み事業費/総事業費	活動	計画値	100		
				実績値	100		
				単位	%		
	名称	住山地区加圧ポンプ室改良工事整備率 実施済み事業費/総事業費	活動	計画値	12	56	100
				実績値	9	12	
				単位	%	%	%
	名称	水圧不足となるエリア内の給水水圧 各加圧ポンプ室完成後における使用量ピーク時間帯の水圧状況(令和元年度は川崎地区、令和3年度は住山地区)	成果	計画値	0.2		0.2
				実績値	0.2		
				単位	Mpa以上		Mpa以上

事業の改善	前評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 住山加圧ポンプ室については、工事期間が2か年に渡る工事となり、かつ、土木建築工事、機械・電気工事と受注者が異なる工事が並行して施工されるため、相互に調整を行い進捗を管理することが求められる。また、建設現場が狭小であるため、安全配慮が特に必要である。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 施工業者が参加する工程会議(定例会議)を開催し、積極的な工程管理を行った。また、工程会議により現場内での重複作業をできる限り避けるよう配慮し、安全対策の徹底を図り施工を行った。 工事においては、建築工事監理を発注し設計図書のとおり実施されていることを確認することで計画的な施工を行うことができた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 土木建築工事(外構工事含む)、機械・電気設備工事及び建築工事監理を計画どおりに発注したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、機器類の製作に不測の日数を要したため、翌年度に予算は繰越したが、契約工期には影響は無く、令和3年度の完成を目指す。	B まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 新型コロナウイルス感染症の影響により翌年度に予算は繰越したが、契約工期への影響は少なく、令和3年度に施設供用開始ができる見込みであることから、水量・水圧不測の解消が図られる。	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 住山西部地区においては、今後、住宅開発等により給水需要が増加した場合、水量・水圧低下が発生することが懸念される。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 給水需要の動向を観察し、必要となる水道管の増径工事等の検討を行う。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 水量・水圧低下を解消し、住民に対し水道水の安定供給が図れる。	
対応時期		給水需要が増加してきた時	

【1次評価者】	上下水道部 上水道課 上水道工務グループリーダー 高沢 直
【最終評価者】	上下水道部 上水道課長 鳥喰 教義

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	B	A	B	
	成果	A	B	A	B	

令和2年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		57,290 千円
内訳	令和元年度からの繰越額	千円
	令和2年度の最終予算額	138,600 千円
	令和3年度への繰越額	81,310 千円